

スタッフ全員が「考え方」を揃え、 目指すものに向けて一人ひとりが創意工夫 良いものを共有しながら課題を解決

清水 貫

代表取締役

誉田進学塾グループ（有限会社 ジャスマック）

千葉県千葉市

誉田進学塾グループ

誉田進学塾
誉田進学塾 ism
誉田進学塾 sirius
誉田進学塾 premium
／東進衛星予備校

学習塾業界は端境期、試行錯誤がしばらく続く

個人的な印象なので、一般論として言えるかはわかりませんが、学習塾業界はいま端境期にあると思います。様々なことが徐々に変わっているのに、その流れの中にあることと見えにくくなり、気がついてみたら大きく変わっていた、ということになるのではないのでしょうか。いろいろなものが変わりつつある中で試行錯誤をしている時期がここ数年で、今後もしばらく続くのでしょうか。

AI、ICT、アクティブ・ラーニングとかアダプティブ・ラーニングなど様々なキーワードが世の中を飛び交っています。ただまだ方向性が見えてきていないように

す。AIやICTを活用して「あれもできます、これもできます」という謳い文句を至るところで目にしますが、「それを使って何をするのか」「何をしたいから、その技術を使うのか」という方向が見えるには至っていません。

今までも同じようにして新たなものが現れては消えていくということが繰り返されてきました。物事が変わり続けている中で「たまたま何かがあったからこうなりましただ」ではなく、「これを実現するために、それが登場して変わることができました」というものでないと、生き残らないのではな

いかと思います。私たちも今までのやり方に固執するのではなく、こうしたいという思いを明確にし、新しいやり方にチャレンジしなければならぬと昨年1年を振り返りながら思いました。

さらに最近感じているのは、そのような流れに対してトップが正しく流れを見て舵取りができるのが問われているのと同じ

に、会社全体は一人ひとりの社員がつくっていますから、社員一人ひとりがチャレンジする気持ちで仕事をしているのかどうかも改めて問われていると思います。いくら上層部が新しいものを導入しようと言ったところで、技術開発をも含めた現場が同じように思っていないければ変わることにはできません。

全スタッフの力を総動員してパワーを生み出す

もちろん世の中が変わっていく中においても、私たちとしては変えずに守っていきたい、やり遂げていきたいという「志」を大切にしようと考えています。私たちの塾

でいえば、「真の意味での英才教育」を目指して「本質的な学力を伸ばす」指導です。そのベクトルが全社一丸となる形で共有できなければ、存分に力を発揮することがで



きないからです。

一人の天才が「一気にすごいことをやり遂げるのも世の中を変えるときには重要なかもしれないませんが、一人の天才はその一人の天才の力量までしか行き着きません。天才の存在自体がボトルネックになる可能性もあると思っています。私には何百人力のパワーがあるわけではなく、せいぜいあつたとしても五人力程度ですから、トップが指示を出して全スタッフを引っ張っていくのは限界があると思っています。それより一人が一人力でもいいから、それぞれが全速力で走るこ

とによって大きなパワーを発生させる方が、最終的には強くなると確信しています。その意味で、弊社の社員の研修と教育が

最も重要だと考えていて、それが上に立つ者にしかできないことだと思っ

ています。全員が同じ「判断基準」で、同じ「目指すもの」に向けて、一人ひとりが創意工夫をし、その中の良いものを共有しながら進むことによって課題を解決しようと考えています。社員の研修と教育は毎年やり方を少しずつ変えながら実施していますが、特に昨年は私の仕事の7〜8割はそれに占められていました。研修を受ける側の社員たちの意見をフィードバックし、研修・教育担当のチームが新しい案・解決策を出し、その中から選び出されたものうち、社長が担当するものが決められ、私が実施するスタイ

ルになっています。研修だけでなく「これは社長の仕事だからやってください」と担当者から言われて私が行うことも多く、油断すると、勝手にどんどん私のスケジュー

生徒のモチベーションや心を上手にリード していけるような指導に重きを

教えるプロといえ、私たちはすごい「技」を持った先生だと思いがちです。しかしそういう人たちしか活躍できないのであれば、発展性という観点からみると塾業界は先細りになってしまっていると思います。教育の道への「志」が強い人ならば、才能や能力を越えて育てることができ、活躍できるような仕組みをつくっていく方が重要ですし、業界の将来の発展につながると思います。その面では教務をアシストしてくれるようなAIやICTは積極的に活用すべきではないでしょうか。

塾にとってはコンテンツやカリキュラムはもちろん大切ですが、私の感覚ではそれらを精査して最高のものをつくり上げることよりも、生徒のモチベーションや心を上手にリードしていく指導にウエイトをかける方が大きな結果が出ると感じています。

例えば、私たちは東進衛星予備校に加盟して10年になりますが、その間ずっと勉強させていただきました。おかげさまで、ここ3年は関東での新年度継続の優秀事例校発表をさせていただいております。結局、無理をして数字を出すのではなく、きちんとやるべきことをやれば結果は出ると自信を深めています。志望校に合格させるために、生徒に無理に勉強しろとハッパをかけ

るに登録されています。個人的にはきついても多々ありますが、次の研修の仕組みがさらに有機的に回るようにするためには、必要なことだと思っています。

るのではなく、そもそも勉強自体が楽しくて一生懸命やる気持ちを持った子どもを育てることができれば、結果として成績は必ず上がります。反対に目先のテストの点数を上げることだけを指すと、長期的には違う結果になってしまうと思います。

社員の採用に関しても同じで、短期的に自分たちの会社にとってメリットのある人を採用するのではなく、将来活躍してくれる方がいいからと、若手の社員を育てていくことに会社が投資していくべきだと思っています。

弊社は外から見るところは非常に古いスタイルの指導で運営していますが、実はその裏側、スタッフをアシストする部分では結構新しいシステムを導入しています。ただしすぐに使える便利な専用のものでなく、原始的で基本的なツールを自分たちで使いこなす、課題を解決していくやり方をとっています。もう少し様々なデータを分析して活用することができれば、新たな方向性が見えてくるのではないかと期待しています。

ともあれ、学習塾業界の将来を常に意識し、「学習塾の素晴らしさ」を次の世代に伝えていくという業界全体の最重要課題に、微力ながら正面から立ち向かう決意です。